法華寺旧境内出土施釉磚

平城宮跡資料館ミニ展示「発掘速報展　平城2015」第Ⅰ期では、特集展示「煌めく施釉磚の世界」として、2014年3月、平城宮の東に隣接する法華寺旧境内の住宅建設にともなう発掘調査（第532次調査）で出土した施釉磚（せゆうせん）をご紹介しました。

施釉磚とは、緑色や黄色の釉がかけられたレンガのことで、主に刻線文二彩磚（こくせんもんにさいせん）（表面に直線を刻み、二色の釉がかけられた磚）、水波文緑釉磚（すいはもんりょくゆうせん）（表面に波のような文様を刻み、緑色の釉がかけられた磚）、緑釉磚（緑色の釉がかけられた磚）の3種類があります。

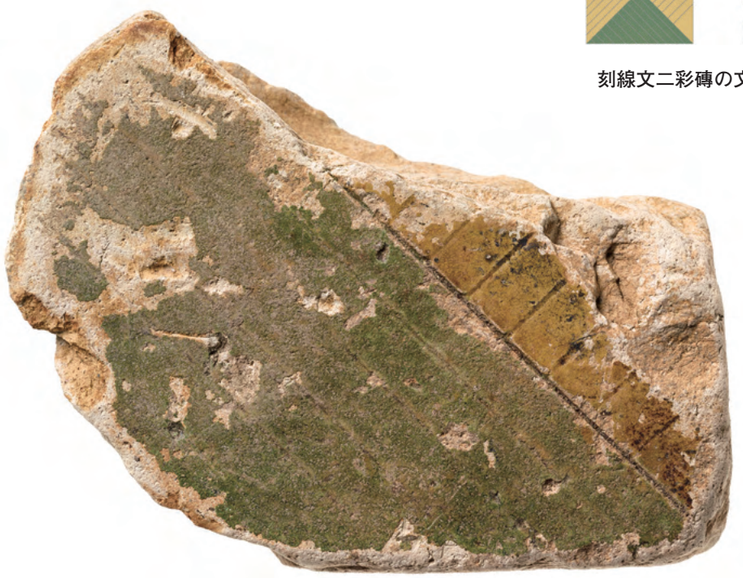
これらが出土した場所は、法華寺旧境内の金堂や講堂の近くに集中しており、刻線文二彩磚と水波文緑釉磚が同じ場所で出土する傾向にあることがわかります。また、表面の文様や釉の配色、裏面に刻まれた数字（番付）等を総合的に検討すると、一案として下図のような敷き詰め方を示すことができます。

これらの施釉磚は、御仏（みほとけ）をまつる金堂や講堂の須弥壇の上面を煌びやかに荘厳していたのでしょう。

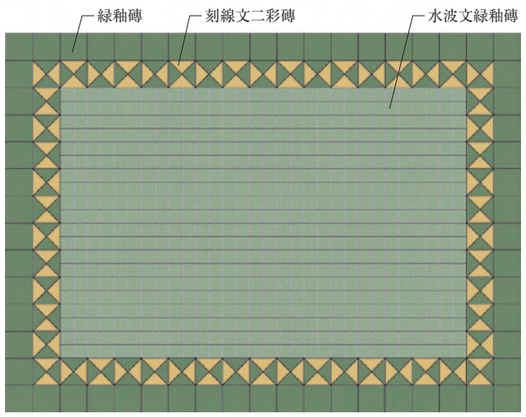
（都城発掘調査部　中川 二美／企画調整部　中村 玲）

水波文緑釉磚（裏側）

刻線文二彩磚の文様構成案



刻線文二彩磚（原寸大）



施釉磚の使用想定案

法華寺旧境内出土施釉磚